

# 半導体業界のライオンズ

## シェアーを目指して

### 凛然として神楽坂からの挑戦

アンカー・ビジネス・システムズ(株) 代表取締役社長

永田 隆一



## ビジネスコラムがカムバック

本コラムでは、昨年秋の第四回から、計一八回にわたり小説形式で、昨今のビジネスシーンを執筆させていただきました。最終回では、「悲観は気分、楽観は意志」という言葉で締めくくらせていただきました。多くの方々より温かい励ましのお言葉をいただきました。心より感謝申し上げます。

さて、国際通貨基金(IMF)の発表によれば、中国・インド・ロシアの国内総生産GDPは、二〇〇七年まで、六〜一〇%で順調に成長していましたが、〇八年は、軒並み二%前後の成長ダウンの予想です。米国・日本・ユーロ圏も二%前後の成長からの一%前後の成長率ダウンです。〇八年は、原材料高や石油価格の高騰を受けてかなり厳しい状況が予想されます。企業は事業計画を検討する際に、徹底してデータを調査分析することから始めます。今回は、データから、どのような億円以上の金融資産を有しているのか、八六万世帯で、全体の一・七%です。日本の総人口が一億三〇〇〇万人です。一万人の人を無作為に集めると、三四五〇人が給与所得者であり、一七人が年収二〇〇〇万円を超えている事になります。ここで、二二八人が、金融資産が一億円を超す富裕世帯で富裕世帯に入ったかです。あまりにざらに遺産を含めた不労所得額が大きな世帯であり、では、不労所得を得るためにはどういった行動が必要でしょうか。

## 課題抽出とその解決方法について

《給与所得と金融資産》

国税局は、毎年秋に給与所得者を調査して公表します。平成一八年度の調査報告書では、給与所得者総数は四五〇万人です。その中で年収二〇〇万円以上が二二万人で全体の〇・五%です。また、世帯数は、四九〇万世帯あり、その内一帯の一員です。この一七人の給与所得者は、家のローンや、子供の学費などの負担も大きく、そのほとんどが一億円を超す富裕世帯には含まれていない可能性がとても高いです。では、この二二

帯の一人です。この一七人の給与所得者は、家のローンや、子供の学費などの負担も大きく、そのほとんどが一億円を超す富裕世帯には含まれていない可能性がとても高いです。では、この二二

帯の一人です。この一七人の給与所得者は、家のローンや、子供の学費などの負担も大きく、そのほとんどが一億円を超す富裕世帯には含まれていない可能性がとても高いです。では、この二二

帯の一人です。この一七人の給与所得者は、家のローンや、子供の学費などの負担も大きく、そのほとんどが一億円を超す富裕世帯には含まれていない可能性がとても高いです。では、この二二

帯の一人です。この一七人の給与所得者は、家のローンや、子供の学費などの負担も大きく、そのほとんどが一億円を超す富裕世帯には含まれていない可能性がとても高いです。では、この二二

て富裕世帯に入ったかです。あまりにざらに遺産を含めた不労所得額が大きな世帯であり、では、不労所得を得るためにはどういった行動が必要でしょうか。

① 出費を抑えて、貯金する。ただし、現在は低金利です。  
② 出費を抑えて、投資をする。株式の配当や不動産が一億円を超す富裕世帯

《建築・土建業界》

国土交通省の発表によ

出ます。番外編として、資産家の老人と婚姻する。日本では、一年間に七五万組が結婚しますが、二五万組が離婚や配偶者の死亡により婚姻を解消しています。

数字から様々な仮定が導き出されてきます。頭の体操にも、お酒の肴もなりそうです。

三年前に、先輩が四国お遍路さんの全行程を徒歩で歩いたときの感想のひとつが、建設・土木会社の看板が多いのに驚いたそうです。

かつて、日本政府は、景気が低迷すると、建設・土木事業に大きな予算を割き、労働市場の提供と景気浮揚策を迅速に取って取りました。しかし現在は、政府の財政の厳しさから、緊縮財政は避

ると、平成二〇年三月末現在の建設業許可業者数は五〇万七五二八業者で、前年同期に比べて一万六七四五社(三・二%)が減少しました。三年連続の減少であり、過去二〇年で最低の企業数です。長野県、鳥取県、山梨県が減少ワースト三県

りです。三年前に、先輩が四国お遍路さんの全行程を徒歩で歩いたときの感想のひとつが、建設・土木会社の看板が多いのに驚いたそうです。

請け業者の厳しさは、想像を超えています。国交省は、民間への参入や事業転換として、リフォーム事業・産業廃棄物事業・介護事業・農業等を推進していますが、成功事例はきわめて少ないようです。なぜなら、談合(調整やくじびき)で受注してきた企業には、そもそも、営業部門がないのです。そういった営業経験のない企業に、民間市場で新規事業を展開しなさいと、机上の空論を霞ヶ

関の方達は唱えているのです。さて、半導体業界も厳しい状況ではあります。が、お上の予算に頼ってきた建設・土木業界の厳しさを考えた時、ビジネススキームの前提は大きく異なりはしますが、ベ

ンチマーク先として、画期的なアイデアのヒントがかけられていることもあります。

りです。三年前に、先輩が四国お遍路さんの全行程を徒歩で歩いたときの感想のひとつが、建設・土木会社の看板が多いのに驚いたそうです。

かつて、半導体業界も厳しい状況ではあります。が、お上の予算に頼ってきた建設・土木業界の厳しさを考えた時、ビジネススキームの前提は大きく異なりはしますが、ベ

ンチマーク先として、画期的なアイデアのヒントがかけられていることもあります。